

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072500768		
法人名	萱垣会		
事業所名	赤石寮グループホームやすらぎの郷		
所在地	下伊那郡阿南町新野28-1		
自己評価作成日	平成21年12月22日	評価結果市町村受理日	平成22年4月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072500768&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072500768&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

台所の手伝い;女性はずっと関わってきている事でやりなれており、皆手を出してくれます。(洗い、切る、炒める、味見、盛り付け、配膳、食器洗い、片付け、台拭き、箸並べなど)  
外出;ドライブ好きな方も多く、気分転換になるので、地域行事参加、四季感を楽しみに外出しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街の郊外に位置し、自然に親しめる良好な環境の中にある。地域密着サービスとして、グループホームが果たす役割を管理者、職員は理解できている。地域との交流も積極的に行われ、この交流を通じて、地域の皆さんと利用者と共に楽しい時間を過ごし”グループホームやすらぎの郷”を地域の皆さんに理解してもらう事ができている。又外部評価の受審には、職員ひとり一人が自己評価し、サービスに対する全職員が常に前向きな姿勢を持ち、管理者の提案をはじめ全職員が協働して実践する姿勢が見受けられる。ホームでは、かかりつけ医、家族、職員等チームによる利用者の終末を4回経験している。今後更に、本人、家族が安心と納得が得られるよう看取りに関する指針の整備を行うことを期待する。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の掲げる「一隅を照らす」という理念の下に独自の目標を毎年作り、事務所へ掲示。更に職員一人ひとりの月間目標を立て取り組んでいる。</p>	<p>地域福祉を支えていく事業の一環として、法人の掲げる「一隅を照らす」を理念に掲げ、職員一人ひとりが理念に基いた月間目標を立て、更に職員会等を通じて、日々の実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事には出来るだけ参加しており運動会のプログラムにも座席をとってくれるようになる。中学校の文化祭音楽会を聞きに行くと、子供たちが出迎え、車椅子を押してくれる。また、自治会、入学式、卒業式には代表者が参加している。</p>	<p>地域の行事には積極的に参加している。中学校の音楽会に参加すると、生徒達が出迎え、車椅子を押して頂ける。又、保育園児とヨモギを一緒に摘み、おやつ作りを行なっている。自治会、入学式、卒業式には、法人の代表者が参加し、地域の一員としての役割りに努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>外出したところで、地域の方々が手を出してくれたり、話しかけてくれたり、理解しようとしてくれている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期開催が難しく、外部評価、事業報告をしたのみとなる。(今年の2月に行い、そこで来年度の予定を立てさせていただき、今後は2ヶ月に一回行う予定)</p>	<p>現在は、定期的な開催は難しいが、運営推進会議の役割りを事業者は、理解しており、2・4・6・8・10月と定期開催を計画しているので、今後はメンバーからの意見をサービス向上に活かす取組が期待される。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>特に町に協力を要請することがない為、担当者で行き来する機会はない。</p>	<p>運営推進会議では、状況報告をするなど、グループホームに必要な情報等町の担当者からの通達はある。</p>	

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。(6,7,8,項目について…身体拘束、虐待防止、権利擁護についての勉強会を行っていききたい。)	事業所固有のリスクを把握して、日々の利用者とのかかわりの中で、その日の振り返りを行い、事例を通して点検を行なっている。	更に、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する気づきを持つ学習会を行い、生活を整えるケアとして職員全員で共有認識を図ることが大切であるから、今後のパーソンセンタードケアの取組を期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人による外部評価事業と、家族会にて要望などを聞いている。	家族の訪問時や家族会を利用し、意見、要望、苦情等を聞く姿勢を持っている。家族から出された意見等は、前向きに受止め事業所の運営に活かす様努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会 今年度は、居間に手洗い場を設置。 年度末の反省。	毎月の職員会、年度末の事業総括にて、意見や要望を聞くようにしている。環境整備や感染症予防対策として、居間に手洗い場設置がされた事も、現場の職員のアイデア提案によるものである。	

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人の規定により改善。年に一度「元気回復」ということで、職員が気分転換できるよう行っている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「もみじ研修」…今年も参加。                      「認知症実施研修」…やっと申し込み受け入れていただけただけの為参加する。                      近場の研修が主になってしまう。(法人、エリア内の研修参加)</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飯伊にある14グループホームによる集いにH19.1月より参加。三ヶ月一回の割合で研修、交流している。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時、聞き取りを行うがどうしても不十分な為生活しながら関係作りに努めている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時聞くようにはしているが、面会時などにも大切にしている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>“他のサービスも含めた対応”とは何でしょうか。</p>		

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かを一緒にすることで大切にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りで日頃の生活を知らせたり、贈り物が届いたときに、お礼の電話を一緒にするなど(話が出来る方)家族との絆を大切にしている。身元引受人では無い家族にもお便りを発送している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい知人、行きたい場所があれば、出掛けよう努めている。(誕生日には職員が一人ついて行動を共にしている) 兄弟のお通夜、葬式。 赤石にいる姉妹に面会。 墓参り。	グループホームに入居する事により、これまでの関係が途切れないように逢いたい人、行きたい場所、又は兄弟の葬儀に出席したりして、一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続的な交流が出来る様努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聞き流せる方と、しっかり聞き入れてしまう方が話をすると、混乱してしまい難しいところがあるが、会話がかみ合っていないでも楽しそうである。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	三月に一名死亡。(その後も家族の方がボランティアを続けて行ってくれている。)		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言える方は把握しやすく努められる。他の方は、選択してするような形で聞くようにしている。	思いや意向の表出の困難な利用者には、笑顔がたくさん見られる場面によって把握している。利用者がその人らしく安心して暮らしを継続できる様、センター方式を活用し本人の思いや意向の把握に努めている。	

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知人の方の来寮の声かけをし、(お話ボランティア)昔話などを聞きたい。 家族の方に聞きたいことをメモしておくなど、もう少し工夫し、面会時に聞くようにしていきたい。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子・・・記入の仕方を変えたので、以前よりわかりやすくなった。 一ヶ月のまとめを担当者が職員会で発表することにより、現状の把握が出来るようになった。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方との話し合いがまだ不十分だが、家族会において意見を聞くようにはしている。	介護計画は、日々の係りの中で本人や家族の思いや意見を聞き反映し作成しているが、モニタリングに基いた介護計画の見直しは不十分である。	日々の介護は介護計画を通して行なっていることを全職員が共有し、計画作成担当者が作成したプランに対して、全員でカンファレンスを行い、本人や家族の要望や変化が生じた場合は、モニタリングに基いた介護計画の見直しがされる事が望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会において担当が一ヶ月の様子をまとめ発表しそれについて意見を出しあっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添い。 身内のお通夜、お葬式の送り迎え。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供達との交流、りんご狩り、温泉、外食など地域交流源を利用し、楽しく生活できるように支援している。		

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族に聞いて支援しており、他の病院へ受診となった場合は、紹介状を書いてもらっている。	地元の協力医療機関がかかりつけ医となっている。家族の希望する病院の受診については、かかりつけ医の紹介もあり適切な医療の支援がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子が見えたら、連絡し、指示をおおぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADL低下防止の為、治療の必要がなくなったら早期に退院してほしいと考えている。特に関係作りはしていない。認知症と聞く顔をしめる病院関係者がいる。もっと理解してほしい。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	3月の亡くなった方の場合、ご家族にそばにいてもらえて、常に面会にも来て頂け、相談しながら行った。ご家族と先生との相談の場も設けることが出来て、皆で取り組めたと思うが、やはり職員の中で不安もあったようだ。(GHで出来ること、方針の共有に努めていきたい)	利用者の重度化や終末期を主治医と情報を共有しながら、ホームでは利用者の看取りを4回経験している。しかしその中でも、職員の不安も多少あり、家族との看取りに関する指示書等の作成も検討している。	事業所として、又かかりつけ医の助言もあるようであるから、重度化や終末期に向けた看取りに関する指示書を家族と取り交わし、その上、職員全体で率直に話し合い、本人と家族の安心が得られるよう、段階的な合意をされることを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場合、マニュアルがあり、把握はしている。訓練は行っていないので、考えていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年一回訓練を行っている。地元の方の協力もあり、GHの職員は、GHを優先して対応し、終了後手順について話し合っている(気付いた事など上げてもらう)	マニュアルを作成し、消防署の指導と地元の協力を得て、具体的な避難訓練が行われている。訓練後は、手順等について反省会を行い、今後活かすように努めている。	

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しているつもりだが、遠くからの声かけや、大きな声(あっ！待って待って！)など、他の方からの注目をあびないように注意していきたい。また、申し送り時、お年寄りがそばにいたりするので、イニシャルで話している。	利用者の尊厳を損なわないように職員間で、言葉使いなどサービス提供現場において、常に反省しながらプライバシーの確保に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前に「どうしますか？」と聞いてから関わっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか一人ひとりのペースになれず、皆での行動になってしまうも、努力はしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい 本人が着たい服を着る。入浴時、どうしても職員の手で衣類を用意してしまっている。もう少し着る物を本人に決めてもらえるように関わりたい。毎日ネックレスや化粧をしている方がいるので、まわりにも影響が出る事を期待している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所はお年寄りが一番手を出しやすいところだと思っている。	一人ひとりの嗜好を加味しながら、利用者と一緒に買い物に行き、献立を共に作っている。利用者と職員の会話も弾みながらの調理の下ごしらえや盛り付け、配膳など職員と共に行い、利用者の前向きな気持ちを引き出すような声かけや場面作りの工夫がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、赤石寮(特養)の栄養士さんに献立チェックをお願いしているが、「おいしい」と食べてもらえればいいと思っている。水分量の少ない方は量をチェックして気をつけるようにしている。		



外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している方は3人。口臭が気になる方、入れ歯に汚れが溜まってしまう方は対応しているが、嫌がる方は積極的には行っていない。(週一回夜間洗浄液につけての洗浄を全員に行っている)		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックはしているが、トイレでの排泄への誘導はなかなか難しい。日中は布パントツにケアパットで対応している。	全職員が一人ひとりのサインを把握し、行きたい時にトイレに行けるよう身体機能に応じて対応している。職員会においてチームで見直しを行い、自立に向けた支援に心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たいミルクを飲んでもらったり、腹筋をやっていただく方がいる。また、野菜の繊維を残される方には、助言を行っている。トイレに座っての姿勢のほうが出やすい為、自力で立てない方には二人介助でトイレに座っていただくように対応している。。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけで断られたら、時間を置いて入浴してもらっている。時間帯は午後と決まっている。冬場は職員と一対一で温泉へ行っている。	入浴は午後行なわれ、体調の悪い利用者には、体調に合わせて足浴に変えたりしている。又季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯、職員と一緒に温泉に行ったりと、一人ひとりに合わせた入浴支援を行なっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、ミルクやジュースを飲みながらテレビを見ていて、自分から休まれる方もいる。うとうとし始めたら声をかけるようにしている。お昼休みはこたつの回りで休まれる方が多くなってきている。		u
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋には薬と目的を明記してある。精神科の昼の薬をやめることにより、足の動きが良くなった様に思えるので、中止している方がいる。		

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割(神棚のお供え、玄関はき、箸並べ、食器片付けなど)を持っている。歌のビデオを見たり、ドライブに行ったりと対応している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日一回は外出したいという思いがあり、毎朝、隣の赤石寮までゴミ捨てに行き、寮長さんに挨拶してくる。月に一回お楽しみ日を決め、計画しており、天気によっておむすびを持って近場に行ったりしている。	一日一回は外出をし、毎日敷地内の施設へゴミ出しに行き、寮長さんに挨拶をして来ることが日課となっている。お弁当持参の少し遠出の外出もあり、季節感を感じている。これも、利用者、職員のとってストレス発散の場となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理されている方は一人。買いたいものが(お菓子やパン)ある時は、預かっている財布を持って一緒に買い物に行く。「自分で払って見ましょうか」と声をかけていきたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物が届いたときは、お礼の電話をいれて、本人と話をしてもらう。毎月のお便りも本人が書いてくれる方(3人)があり、写真も一緒に送らせてもらっている。一人、他のGHのお年寄りと文通をはじめる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花など飾り、季節感を取り入れている。居間に流しをつけたことで手洗いなど皆で気をつけられるようになった。	共有の空間には、季節の花や利用者の書道、行事の写真など飾られ、季節感を感じる事が出来る。畳のコーナーでは、手作業やごろ寝も利用者にとって、居心地のよい場所になっているようである。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとつのコタツでは決まった場所が出来てしまい休めない方もいたが、家具調コタツとテーブルのこたつが増えた為、ゆっくりと気の合った方と話ができるようになった。		

外部評価結果(赤石寮グループホームやすらぎの郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れたものを持ってきてくださいとお話するが、実際は新しく購入されてくる方が多い。昔の写真、家族の写真、本人の作品など貼らせてもらっている。今何が部屋にほしいか改めて聞いていきたい。	居室にはそれぞれトイレが設置され、整理ダンスやテレビが持ち込まれ、好みの置物や大切な家族の写真などその人らしく過ごせる工夫がされており、自宅生活の延長のような暮らしが感じられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れてくると決め付けてしまう所があるので「やってみなければわからない」という思いで、声をかけていきたい。安全であるバリアフリーが足を弱くしているため、足の上げ下げの運動が必要である。		